

情報連絡員報告総括表（令和4年2月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況			
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	
製 造 業	食料品		3	1	1	3		1	3			4			1	3		3	1		4			3	1		1	3
	繊維工業	1	1	1		3		1	2			3			2	1		3		1	2			2	1		1	2
	木材・木製品	1					1	1			1		1				1		1				1		1			
	紙・紙加工品		1	1		2			2			2			2			2			2		2			1	1	
	印刷		1			1			1			1			1			1			1		1			1		
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	1	1	1		3			3			2	1		2	1		3			3		3			2	1	
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1			1		1			1		
	一般機器			3	2	1		1	2			2	1			3		3			2	1	1	2				3
	電気機器			1			1					1				1			1			1		1				1
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1		1			1	
その他																												
小計	4	7	9	3	14	3	4	15	1	1	15	4	1	6	13		17	3	2	13	5		16	4	1	8	11	
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2					2			1	1	
	小売業	1	1	4		4	2	4	1	1		3	3		2	4		2	4				5	1		1	5	
	商店街			1			1	1				1				1				1				1			1	
	サービス業		4	1				1	4			5			4	1		4	1				3	2		3	2	
	建設業	1	2	1				1	3		1	2	1	1	2	1	1	3					4		1	3		
	運輸業		1						1			1				1		1						1			1	
	その他		1						1			1			1			1					1			1		
小計	2	11	7		6	3	8	11	1	1	15	4	1	10	9	1	13	6				15	5	1	9	10		
合計	6	18	16	3	20	6	12	26	2	2	30	8	2	16	22	1	30	9	2	13	5		31	9	2	17	21	

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年2月～令和4年2月)

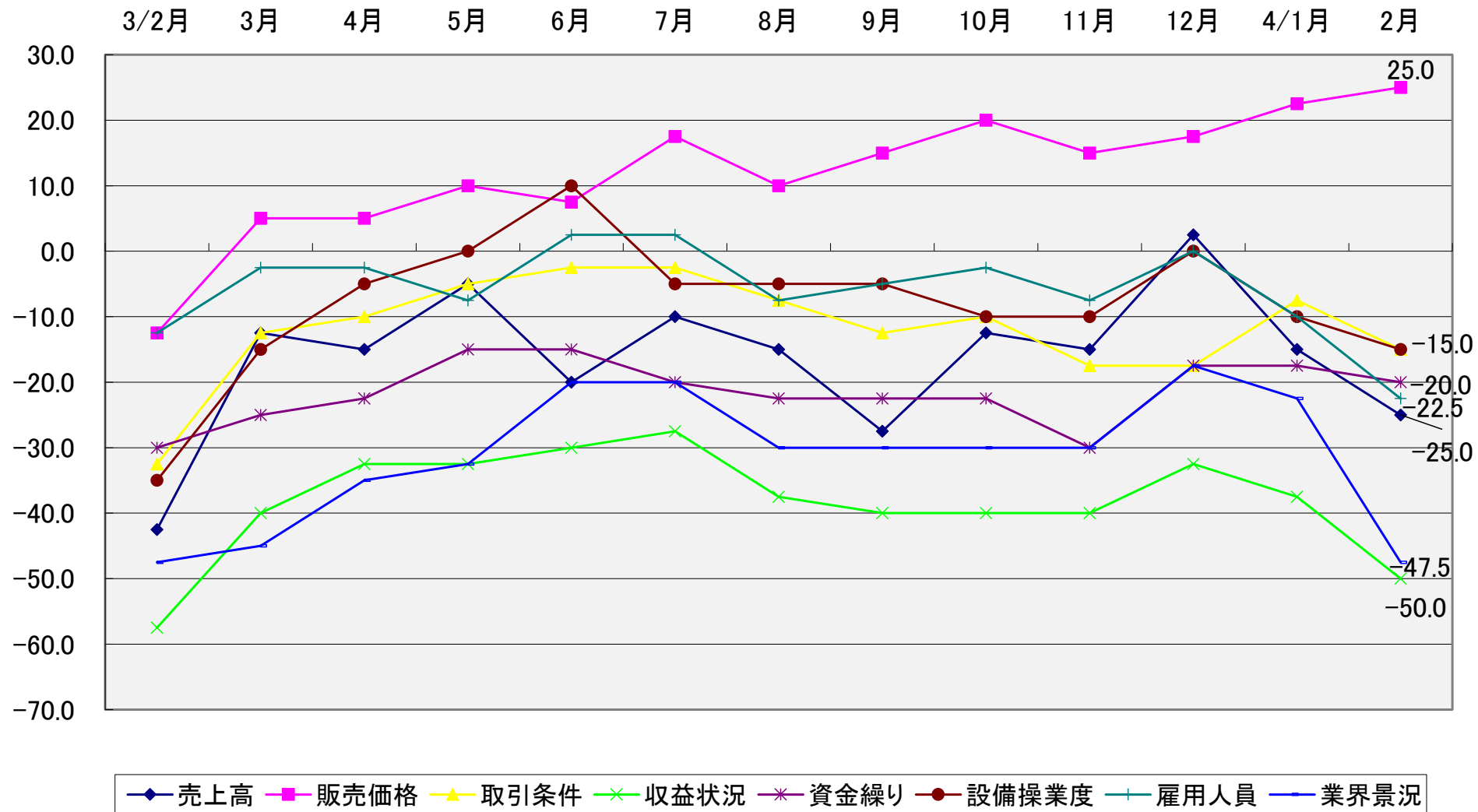
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	増減
売上高	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-10.0
販売価格	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	2.5
取引条件	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-7.5
収益状況	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-12.5
資金繰り	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-2.5
設備操業度	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-5.0
雇用人員	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-12.5
業界景況	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-25.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また、販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いている。 また、今年も全日本漬物協同組合連合会主催の「漬物グランプリ2022」が開催されるため、会員に応募を促した。
	醤油味噌	平成29年9月に食品表示基準が改正・施行され、国内で作られたすべての加工食品に対して、原料原産地表示を行うことが義務付けられ、経過措置期間は令和4年3月までであるため、4月から原料、原産地表示が義務化される。 ロシアのウクライナへの侵攻により、当業界にどれだけ影響を及ぼすかが、心配である。
	豆腐	燃料の高騰に加え、原材料、包装資材が値上がりしてきており、収益は悪化している。
	製麺	1月21日に適用されたまん延防止重点措置が続いている。これを踏まえてまた対策を取る必要がある。飲食店関係はまた時短を余儀なくされるので、厳しい状況が続くであろう。弊社では、自動販売機での販売を開始した。コロナ禍でお客様の要望に答えて商品開発に取り組んでいく。 (まん延防止重点措置は令和4年3月6日で解除、令和4年3月7日から令和4年3月21日まで県下は再拡大阻止重点期間)
木材・木製品	木材	ウッドショックによる影響で、住宅資材全般に品薄状態が続き、前月比ではやや弱含み傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値水準で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	新型コロナウイルスの感染拡大、原油価格の高騰、米国の利上げ時期に関する問題等、マイナス要素の多い状況である。そんな不安の経済情勢であり、2月は加工食品や宅配向けの需要はあったものの相対的には前年同月対比で10%前後生産量は落ち込む。ロシア軍によるウクライナ侵攻も始まり、更なる経営環境の悪化が心配される。
	古紙	2月期の仕入れ量は：段ボール・約98±4%、新聞、チラシ・約87±9%、雑誌・雑がみを合わせて約86±5%と思われる。段ボール古紙は生活物資と宅配等の需要でお取引をしている企業やお店・古紙の無料回収所等によって組合員の集荷の良し悪しがありそうである。新聞雑誌の古紙の持ち去りが減った地域は若干の増加がみられるが、経営に貢献するほどの量ではなかった。スクラップ等の金属価格の高騰で、持ち去りも古紙や古着から金属が主流になっているようである。古紙の国内メーカーの発注量は、前年より20~30%の大幅アップである。段ボール原紙の取引価格値上げについては、申し入れはしたようであるが、実質4月以降になるのかも知れない。まん延防止等重点措置の延長はなく、今後の人の動きに期待したい。賃金の上昇は良い事で、働き方改革で残業が減った分ですてができれば良いのであるが、原資が足りないのと景気が良くなると残業が増えるのも先読みが必要で、判断が非常に難しい。ユーラシア大陸の事変は、東側と西側のパワーバランスの崩れからか将来の日本国土でも起きうる様な気もして心配事が増えそうである。いづつながら古紙の持ち去りや無料排出所のゴミの不法投棄は無くならずである。
印刷	印刷	繁忙期を迎えて、さすがに忙しくなってきた。それでも例年の同時期と比べての減少傾向は昨年同様に続いている。また新年度を迎える4月からは、紙をはじめ多くの資材が15%程度の値上げになる模様である。次年度の見積りに価格転嫁は必然だが、入札物件は落札できないことが予想される。
窯業・土石製品	コンクリート	北勢地域での需要が多い状況が続いているが、鈴鹿、伊賀地域はやや減少傾向である。多少、年度中盤の需要増の状況が落ち着いてきたように感じる。セメントの価格が上昇してきており、業界としても地域ごとに対応はバラバラであるが、値上げを検討していく。
	伊賀焼	1月に引き続き来客数は少なくなり、団体客様については、ほとんど見られなくなってしまっている。イベント等を計画していてもまたコロナが流行しだすと開催が難しく頭を悩ませている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は1月とほぼ同様であった。自動車関連部品は増産されるとの推測であったが、少しの増加に止まった。電気関連部品、建築関連部品、ガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連部品は増加傾向が続いている。コロナの水際対応が緩和される事もあり、3月後半から徐々に技能実習生の入国も見込め、労働力不足も多少改善できると思われる。原油価格の高騰等があり原材料の高騰があり、顧客への価格改定交渉が必要である。
	四日市	ロシアのウクライナに対する戦争が起これ、世界中がパニックに陥った。経済も混乱し、原油を始め諸物価は高騰している。コロナ感染症も収まる気配もない上に、次々と心配事が人類を脅かし、対応に苦慮する。われわれの頑張りしか打開策はない。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	一般機器	津市	銅材料の入手が非常に悪く、注文して半年後に入荷するかどうかといった状況である。材料が入手できないため生産が出来ず、売上悪化の一因にもなっている。また、児童のいる家庭では、学校でコロナ陽性者が発生しクラス全員が濃厚接触者扱いになってしまう場合には親も休暇を取得をせざるを得ず、生産に支障をきたす事となり、悪循環となっている。
		伊勢	自動化、省人化のニーズは続いているが、半導体不足により製造が進められない状態の中、注文は続き、EV関連の需要が加速されると思える。ロシアのウクライナ侵攻で急激にエネルギー価格が上昇、モノ、人材不足になってきている。
	電気機器	鳥羽	2月に入り、例年より受発注量が20%ダウンで推移しており、非常に厳しい状況である。主材料だけでなく、副資材関連も値上がりとなり、経費が圧迫されていく方向である。
	輸送機器	鈴鹿	各自動車メーカーでは、多くのバックオーダーを抱えているもののサプライチェーンからの供給の混乱により、なかなか本格的に増産できない状況が続いている。挽回を期して3月以降も例年以上の計画数が出ているが、先行きの不透明感は否めない。
非 製 造 業	青果		野菜前半：寒さの影響で全体的に入荷が減ったが、引き合いは高まらず安い物が多く、特にキャベツ、白菜の安値が続き入荷が減り、高値になりそうである。低温のため、きゅうり、なす、ピーマン等の果菜類は値上がりした。玉ねぎ、じゃがいもも昨年に比べて高値が続いている。 野菜後半：安値が続いていた大根、白菜は春の品種への切替え等で入荷が減り、値上がりしている。白ネギは安値で安定している。ほうれん草、小松菜も安定価格である。
		自転車	新型コロナウイルスの感染者増加で、まん延防止等重点措置の適用により、学生を含む人々の動きが少なく、個人消費がストップし、中旬からは商品、修理収入がほとんど悪い状況である。自転車部品等、さまざまな取扱い商品の価格上昇も重なり、商品展示も多く置けないショップがあり、店舗には立ち寄るだけで購入せず、人は大型店へ流れる悪循環となっている。2月末の商品売上台数は昨年比マイナス4割と厳しく、家計への打撃と重なっている気がする。コロナ以前の活気にはほど遠く、3月に入っても消費動向は非常に厳しいと思われる。この状況下、一部メーカーが来年より月間お買い得キャンペーンを打ち出すも、あまり乗り気がないようである。
	小売業	電器	2月に入り家電製品の仕入れ価格の値上げが相次いでいる。半導体の慢性的な不足と原油価格高騰、それに伴う輸送費の値上げが原因と思われる。需要としては故障や使用年数の寿命によっての買い替えはあるが、まん延防止等重点措置が行われている状況もあり、全体的に買い控えが起きている様子である。今後ロシア関連や原材料の値上げの話も出ていることから、先行きが不安である。
		石油	今週のレギュラーガソリンの小売価格は、全国平均で1L当たり172円と、先週より0.6円値上がりし7週連続の値上がりとなった。政府の元売りへの補助金対策で全般的には価格は抑えられているものの、地域差により価格にばらつきがある。2月24日ロシアがウクライナへの軍事侵攻を始め、ウクライナ各地の軍事施設が空爆で破壊されたほか、首都キエフの空港を巡ってロシア軍とウクライナ軍が戦闘した。これを受け、原油市場では産油国ロシアからの供給が減ることへの懸念が強まり原油の先物価格は上昇しており、24日1バーレル当たり100ドルを突破した。政府は10日から補助金の支給単価を上限額まで引き上げている。経済産業省は補助金がなければ今週のガソリン価格は177円になっていたと試算しており、一定の効果はあったとしているが、ただ、目標とする170円の維持は難しく、ガソリン価格は一段と上昇する恐れがある。政府は早急な補助金の拡大等見直しや制度の根本的な見直しの検討が急務となる。どちらにしても、石油業界にとってカーボンニュートラルや原油高問題等々先行きが見えない状態である。
		スポーツ	先月は寒い日が多く、オミクロン株の猛威もあり、売上は減少のようであった。ただ、新入生の体操服販売が始まり、特に中学校が高校より早いので、その関係店は忙しくなっているようである。オミクロン株の猛威が収まってきた所に、ロシアのウクライナ侵攻が起きた。スポーツ用品は、どちらかと言えば嗜好品の部類であり、消費等で優先順位が低い業界、平和も関連する業界であるため、今後が心配である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	感染拡大と、まん延防止重点措置が発令されている状況の為、普段以上に人通りは少なく、どの店舗についても売上は相当厳しい。特によく言われることは、飲食店関係については、協力金での保証があることや、昼間主体の飲食店等はほとんど影響を受けずに協力金が発生すること、小売店についてはわずかな補助金のみといったさまざまな不公平感を事業者の中から多く聞こえるようになってきている。
	旅館	昨年12月初旬には、1月、2月とも通常年と変わらない程の勢いで、予約が伸びていたが、1月21日にまん延防止等重点措置が発出されると同時に、キャンセルが相次ぎ、2月も(悪化した昨年に対して)90%、2019年度通常年の2月に対しては20%程度であった。人が外出しない事には打つ手が無い。
サービス業	測量	官庁からの発注量は例年並みである。 新入社員の確保に関して、新たに新機材を導入するには、先行きの見えない業種だけに難しい。
	警備	受注は昨年と同様にあり、従業員(隊員)不足から、少し単価が時期的に値上げされたが、新型コロナウイルス感染の急拡大で従業員(隊員)の休みが多く、収益としては不変となった。
建設業	内装工事業	2月は前年同月比で大幅に増加となった。年度末の関係で売上等の増加があると思われるが、3月はコロナの影響がどうなるのか、予測が難しい状況である。
	水道工事業(亀山)	コロナの終息が見えない中、まだまだ不安定な状況が続いている。
運輸業	トラック	軽油価格は政府の燃料油価格激変緩和対策の効果は薄く、市場価格は高騰を続けており、運送事業者の経営を圧迫している。電子デバイス部門は順調に増加傾向にある事から、関連する輸送も好調である。自動車関連については、当初は増産傾向にあったが、オミクロン株の感染拡大により、工場が稼働停止した事から関連する輸送も大きな影響を受けた。スーパーマーケット、小売関連は持ち直しており、関連する輸送も微増となった。住宅関連については、堅調に増加し、関連する輸送も増加傾向となった。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後のコロナ向上助成金等、今後に取り組んでいける内容を教えてほしい。
一般機器	四日市	政府は、戦争を終わらせるための最大の努力を行ってほしい。また、コロナの収束に向けて最良の方策を打ち出してほしい。
サービス業	旅館	国土交通省、中部運輸局主催による第2回金融懇談会が2月16日東海4県と福井県の旅館代表者と金融機関が集い開催された。議事録はまだ出ていないが、多くの金融支援策が出ていた。その後、3月3日に政府が発表した支援策が2月の懇談会で出していた内容とほぼ同じであった。これが各県地方銀行の現場まで届くよう、情報提供されるようお願いしたい。
	測量	後継人を育てたい。 中小企業に対する三重県からの発注件数を増やしてほしい。